

1. 研究課題名： アジア地域における経済発展による環境負荷評価およびその低減を実現する政策研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

渡辺 知保

(東京大学大学院医学系研究科)



3. 研究実施期間：平成18年度～20年度

4. 研究の趣旨・概要

中国をはじめとするアジア諸国の農村部では、在来農耕から換金作物栽培への転換が急速かつ広範に進行している。こうした農村の市場経済化は、農薬や食品添加物など化学物質の地域生態系へ放出・蓄積という側面をとめない、農村部に居住する住民の健康・生存の持続性に影響することが懸念されている。

本研究課題は、研究代表者を含む人類生態学者が調査経験を有するアジア地域の6カ国（バングラデシュ、インドネシア、中国〈海南省／雲南省〉、ベトナム、パプアニューギニア、ネパール）約30村落を対象に、生業転換を引き起こす要因（例えば、農業・環境政策）、生業転換の程度、その環境影響（特に化学物質の蓄積と健康リスク）を記述的に整理し、さらには統計解析による生業転換の要因分析を通して、アジア地域において進行する生業転換と化学環境転換との相互関連性を明らかにすることを目的とする。化学物質の探索的定量には、熊本県立大学の有菌教授が稼働させている約500種類の化合物を同時に定量できるシステムを応用する。

アジア農村部で将来的に深刻化する化学環境の転換という問題に対応するための政策策定に貢献することが期待される。

5. 研究項目及び実施体制

①環境・生体負荷の評価・ケミカルフローの解析に関する研究

(東京大学大学院医学系研究科)

②環境試料及び生体試料における化学物質汚染の探索的解析に関する研究

(熊本県立大学大学院環境共生学研究科)

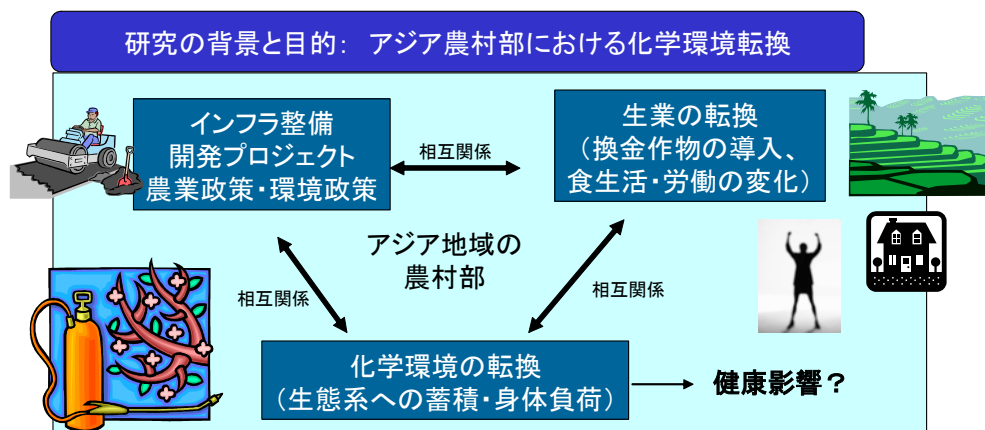
③バイオマス・生物多様性の評価と生業にかかわる基本データの収集・分析に関する研究

(東京大学大学院医学系研究科)

6. 研究のイメージ

課題番号: H-063

研究課題: アジア地域における経済発展による環境負荷評価およびその低減を実現する政策研究

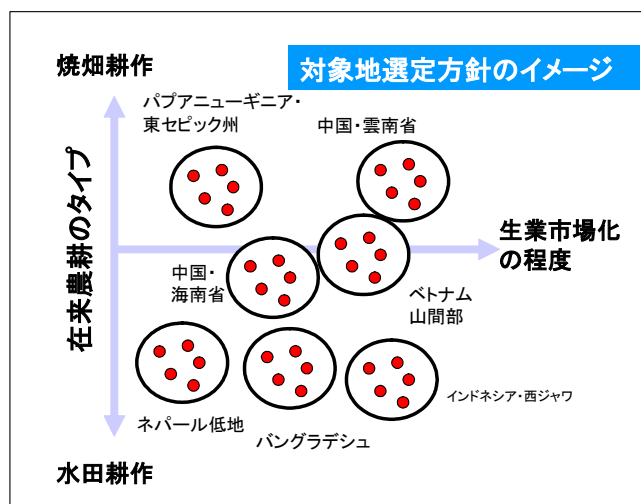


方法： 6カ国約30村落における化学環境転換の評価とその要因分析

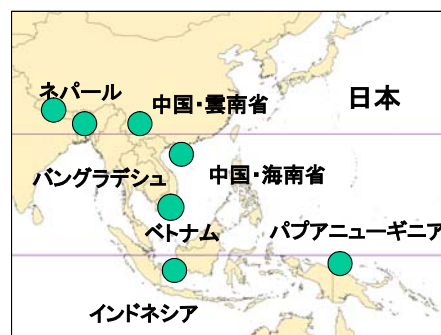
サブテーマ①: 既知の化学物質の定量・定性分析(農薬、食品添加物、重金属)

サブテーマ②:未知の化学物質の網羅的・探索的分析(約500種類の化合物の同時分析)

サブテーマ③: 転換を引き起こす要因の分析(政策、インフラ、生活スタイル、歴史)



環境問題にかかわる国際ネットワーク



期待される成果、地球環境行政への貢献:

- ①アジア農村部における化学環境転換の生態学的要因を解明。
- ②化学環境転換にともなう健康影響の緩和方策の提示。
- ③環境問題にかかわる国際ネットワークの構築。